



こころのバリアフリー4

プライバシーを守り、人権を守る

部落差別が過去のことで認識されようとしてはいいのでしょうか。部落出身ゆえに就職や結婚に壁を作ってきた社会があります。このことは「気がつかなかった」「知らなかった」では済まされない事実です。これは私たちの心のありように投げかけてくれた課題だと思います。私たち大人はこの『こころのバリア』をどうするのか、真剣に考えなければいけません。

今、あなたは幸せですか？

あなたのまわりの人は幸せですか？

あなたは、どんな時に「幸せ」を感じますか？

おいしいものを食べた時

温かいお風呂に入った時

好きな人といっしょにいる時

自分の思いをわかってもらった時

夢に向かっている時

その夢が実現した時…

あなたの「幸せ」と私の「幸せ」は同じではありません。

でも、誰もが幸せになる権利があるのです。

そうです。

それが人権です。



学校や職場の書類に、親の学歴、住まいの様子（賃貸かどうかなど）、兄弟の職場など当たり前のよう書かれていた時代がありました。結婚については興信所で調べることが当然のようになされていました。プライバシーの保護という意識が高まり、今では差別行為と見なす社会意識が育ってきた背景には、解放運動による地道な取り組みがあったのです。（詳しくは次のページ）